

ご挨拶



土浦市長
中川 清

新年明けましておめでとうございます。

市民の皆様には、希望あふれる平成20年の初春を、健やかにお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年11月の市長選挙におきましては、市民の皆様のご支持により、土浦市長として2回目の当選をさせていただきました。引き続き市政の舵取りを担うこととなり、改めてその責任の重さを痛感すると共に、市民の皆様の期待に応えるべく全力で取り組む決意を新たにしているところでございます。

さて、本格的な地方分権の到来により、都市間競争がますます激化する中、地方自治体に課せられた喫緊の課題に対応するためには、自主的・自立的行財政運営を行うことが求められており、住民自治力・市民社会力の強化・充実を図ることが、今後の大きな課題となっております。

2期目の市政運営につきましては、未解決の課題や計画段階の事業の対応をはじめ、やらなければならぬ政策をしっかりと実現させてまいりたいと考えております。

私のまちづくりに対する基本姿勢の柱の1つは、これまで実施してきた行財政の総点検を継続的に実施し、しっかりとした財政基盤の確立を図り、

市民サービスを安定的に供給・向上を図ることができる持続可能なまちづくりであります。

2つ目は、市民と行政が一体となった協働のまちづくりであります。

市民と行政の関係・役割は、大きな転換期であり、市民力・地域力を結集すること、すなわち、市民一人おひとりにまちづくりに参画していただくことが今後、ますます必要かつ重要となつてまいります。

これからの新しいまちづくりには、市民の皆様の中に「自分のことは自分で、地域のことは地域で」さらには「自分たちのまちは、自らが創る」という意識が醸成され、それがさまざまな地域活動の実践に結びつく環境づくりに取り組むことが必要であります。市民の皆様をはじめ、町内会、まちづくり市民会議や地区市民委員会、さらには、NPO、ボランティア、事業者など、多様な主体が地域の問題に自ら取り組む環境づくりを推進し、市民と行政が一体となった協働のまちづくりを展開してまいります。

私は、まちづくりに対する私の基本姿勢に基づいて、『水・みどり・人がきらめく安心のまち 活力のまち 土浦』を将来像とした「第7次土浦市総合計画」を市政運営の基本として、豊かな自然、誇れる歴史と文化をはじめ、人・物・情報など本市の持つ潜在力を積極的に活用し、「日本一住みやすい土浦」の実現に向けて全力で取り組んでまいります。

21世紀の新たな時代にふさわしい真の地方自治の確立に向けて、常にチャレンジ精神を持ち続けてまいり所存でありますので、市民の皆様のごさらなるご支援・ご協力をお願い申し上げます、年頭のごあいさつといたします。

